

第1学年 生活科 指導案

第1学年4組

32名

研究主題

豊かに生きる力の育成 ～自分を知ることから始めるキャリア教育の実践～

1 単元名 『かぞく にこにこ 大きくせん』

《キャリア教育の視点》

- ・自分のめあてをもって実践する力【課題対応能力】





2 単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭での楽しみ、家庭における自分の生活や役割などについて考えることができ、家庭での生活は互いに支えあっていることがわかり、家族の一員として、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりすることができるようにする。

3 評価規準

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	・家庭生活に関わる活動を通して家庭での生活は支えあっていることが分かっている。	・家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	・家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。

4 本単元のねらいと基礎的汎用的能力と育成すべき資質・能力の3つ柱との関連

		知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
人や社会と かかわる力 (人間関係形成・ 社会形成能力) 	低学年	家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は支えあっていることが分かっている。		
	・自分の思いを伝える力			
自分をみつめる力 (自己理解・ 自己管理能力) 	・周りから良いところを教えてもらい、自分の良さに気付く力		家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	
課題をやりぬく力 (課題対応能力) 	・自分のめあてをもって実践する力		自分でできることや家族が喜ぶことを見付け、家庭生活が楽しくなるように考えることができる。	
将来を考える力 (キャリア プランニング能力) 	・自分の課題に気付く、次に生かそうとする力			自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けたりしようとする。

5 部会提案

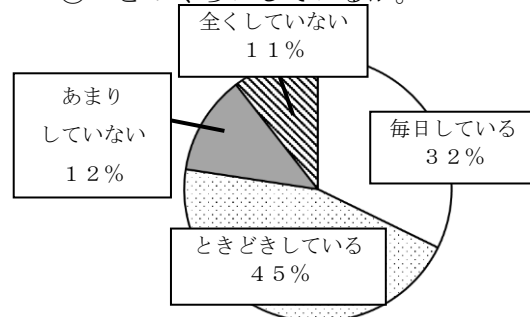
(1) 児童の実態

【実態調査1】 本単元に関する実態調査結果（対象：1年生 129名 質問紙形式 9月に実施）
1年生に「家族のためにしていること」に関するアンケートを実施した。

① 家族のためにしていることがあるか。

ある・・・120人（93%）
ない・・・ 9人（ 7%）

② どのくらいしているか。



③ その時の気持ち（①で「ある」と答えた人のみ）

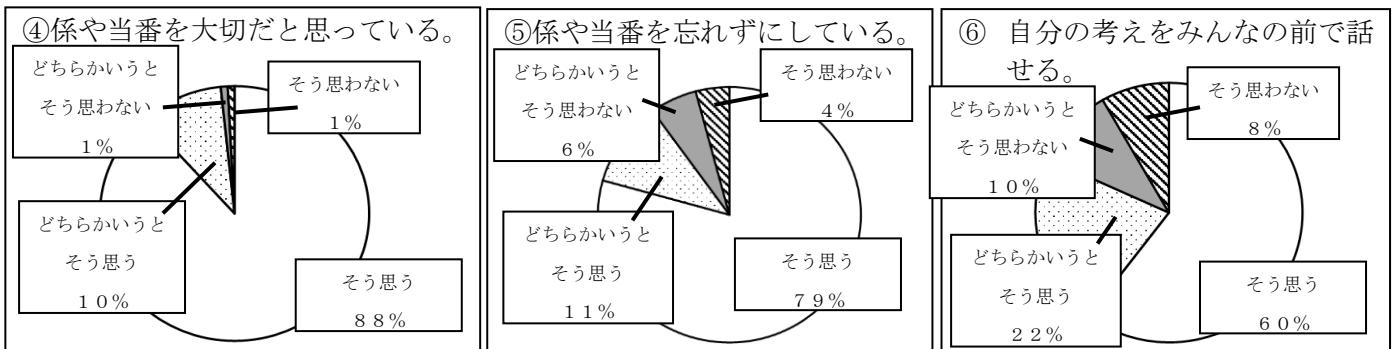
*記述式

*自由意見のため、傾向ごとに分類した。

肯定的な意見 計118人
「楽しい」「嬉しい」「頑張るぞ」
「いい気持ち」「家族を喜ばせるために」
その他

否定的な意見 計10人
「嫌」「大変」「忙しい」「めんどくさい」
「終わったらゲームをする」「疲れた」

【実態調査2】 キャリア教育に関する実態調査結果（対象：1年生 121名 質問紙形式 5月に実施）



(2) 考察

【実態調査1】の結果、90%以上の児童が家の仕事等をしたことがあることが分かった。その内、77%の児童が「毎日している」または「ときどきしている」と回答した。仕事等をしているときの気持ちについてのアンケートでは、前向きな意見が9割以上だったが、1割弱の否定的な意見も見られた。

【実態調査2】では、係や当番の仕事は大切だと98%の児童が肯定的に捉えているが、実際に忘れずに仕事をしていることに関して、「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した児童は90%であった。また全アンケートの中で一番否定的な回答が多かった項目が、「自分の考えをみんなの前で話せる」だった。

家の仕事に取り組んでいる児童は多くいたが、相手意識をもって取り組んでいる児童が少なかったため、家族の具体的な生活場面を考えたり、自分の生活と比べたりする中で、より相手意識をもって取り組むことができるようにしたい。本単元では、自分自身ができることや仕事を継続して取り組むことで、家族がもっと笑顔になり、家族の一員としての自覚が芽生え、家族のよさや自分のよさに気付くことができるようになっていく。否定的だった児童にも「できた」「家族のためにできてよかった」と自分が人の役に立つ喜びを味わい、自己肯定感を高めていくことができるようにするために、家族の協力を得ながら達成感をもたせ、前向きな気持ちで継続していくことができるようにしていきたい。また、キャリア教育の視点では、自分ができることを見付け（自分をみつめる力）、家族のために（人や社会とかかわる力）、自分ができることを継続して行い（課題をやりぬく力）、家族を笑顔にしてい（将来を考える力）ことを意識して取り組むことができるよう、単元全体の活動を通してこれらの伸長を図っていく。さらに本単元の中で、できることを増やし、自己肯定感を高めていくことで、子供たちの課題であった「自分の考えに自信をもって話す」ことについても前向きに捉えることができるよう、手立てを工夫する。

目指す児童像

挑戦 (t r y)

挑戦し、自分の「できる」を見付ける子ども

(3) 目指す児童像に迫るための手だて (◎は、特に本時に関連するもの)

【手だて1】: 仕事に「挑戦したい」という意欲的な気持ちで活動するために

○ 自分事として考え意欲につながる活動内容と教材提示の工夫

自分と家族の1日の過ごし方を比較しながら見つめ直す活動を通して、「自分も家族のために何かしたい。」「家族を喜ばせたい。」という気持ちを十分に高めさせてから、自分にできる仕事を考えていくようにする。また、家族がどのようなときに笑顔になっているかを考えたり仕事内容を考えたりする際には、教科書の挿絵を活用しながら、できるだけ具体的な場面をたくさん想起させられるようにする。その際、「家庭での仕事(家事)」を行った時だけでなく、自分のことを自分でしたときや家族のだんらんの場面、自分が家族を楽しませる工夫をしたときも、家族が喜んでいることに気付かせ、より広い視野の中で自分にできることを考え、実践していくことができるようにする。

○ 仕事をするための環境づくり(家庭との連携)

本単元の活動を充実させるためには、保護者への協力が必要不可欠である。そこで、学習のねらいや意図を明確にし、事前に保護者会やお便り等で各家庭に周知しておく。仕事の内容も、本人や家族が無理なく行うことができること、単発の手伝いではなく継続して行うことができることとなるよう、協力を呼びかける。また、仕事に取り組む際には、ご褒美(お小遣い等)のためなどと外発的な動機付けではなく、「家族の笑顔のためにやりたい。」という子供たちの自発的な思いを大切にしたいという旨を、保護者には十分に理解を得ておく。尚、家庭での協力が難しい児童へも配慮し、家族任せにするのではなく、学校でもワークシートの確認や全体への呼びかけ、個別指導をこまめに行いながら、子供たちが意欲を継続させることができるようにしていく。

◎ 自身のレベルアップにつながる声かけと板書の工夫

仕事内容や取り組み方の工夫について考える際は、学級全体での話し合い活動を充実させ、広い視野の中で自分にできそうなことを選ぶことができるようにする。特に、チャレンジ2(第6～7時)の内容を考える際には、チャレンジ1(第4～5時)のそれぞれの取り組みを学級全体で十分に共有し、レベルアップにつながるポイント(キーワード)を意識させる声かけや板書となるよう工夫する。友達の話の聞いて、自身の視野を広げたり新たなアイデアを生み出したりする中で、さらに「挑戦したい」という意欲的な気持ちを高めさせていきたい。

◎ 「まんぞくハシゴ」の活用

自分の取り組みに対する満足度を視覚化する「まんぞくハシゴ」を活用し、定期的に振り返ることで、今の自分を見つめ直したり、「よりよくするためにはどうしたらよいか。」「その満足度を維持していくためにはどうしたらよいか。」などと新たな意欲につなげたりすることができるようにしていきたい。

【手だて2】: 自分の「できる」を見付けるために

◎ 保護者からのメッセージ








チャレンジ1を終えた後の保護者からのコメントを通して、自分のできることやよいところを見付けたり再確認したりすることで、「自分にもできることがあるんだ。」「自分でも家族をにこにこにさせることができる。」という自信(自己肯定感)を付けさせていきたい。

また、児童の自己肯定感を高めるためにも、仕事をやっているその瞬間や終えた直後にたくさん褒めていただくとともに、次の意欲につながるような声かけ(保護者の願いやアドバイス)をお願いしていく。その際、保護者にも褒め言葉や励ましの言葉の例を提示する。

○ 単元全体を通した、互いを認め合う雰囲気作り(アンケートの結果より)

話し合い活動や発表活動では、互いの意見や考えを尊重し、認め合う雰囲気を大切にしていく。自分のできたことを友達に認めてもらったり称賛されたりする中で、子供たちが自分の「できた(できる)」ことへの達成感や喜びをより実感し、自己肯定感を高められるようにしていく。事前アンケートで一番の課題と分かった「自分の考えをみんなの前で話す」ことへの抵抗感も減らすことができると考えた。

6 指導計画

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	評価 規準	キャリア教育 基礎的・汎用 的能力
学習課題をつかむ	1	学習の見通しをもつ	○家族がにこにこする場面や自分の家族について思い出し、話し合う。 ○家の人や、自分がしていることについて話し合う。 ※ワークシート①	◆ <u>家族と一緒に楽しかったことなどを思い出し、伝え合えるようにするために、一人一人の家庭環境を十分に把握し、言葉がけなどに配慮する。</u> ◆ <u>家庭との連携を図るため、保護者へ事前に活動のねらいや内容を説明し、理解と協力を得ておく。</u>	【知・技】	
	2	自分と家族の1日の過ごし方を知る	○家庭での自分の1日の過ごし方を思い出し、家族の1日の過ごし方について考える。 ※ワークシート②	◆ <u>多様な家族構成や家庭環境を認め合い、活動が友達との比べ合いにならないように十分に気をつける。</u> ◆ <u>1日の過ごし方を分類・整理し、家族が健康に規則正しく生活するために、家庭には多くの仕事や役割があることに気付かせる。</u>	【思・判・表】 【主】	 
高める	3	自分と家族の1日の過ごし方を比べる	○自分と家族の1日の過ごし方について、気付いたことを話し合う。 ○家庭で仕事をする家族の気持ちを考える。 ※ワークシート②	◆ <u>自分と比べて、家族が仕事や役割を多く担ってくれていることに気付かせる。</u> ◆ <u>家族が家庭のために果たす役割や仕事が、自分とどのように関わっているかを考え、自分ができることをやってみたいという意欲をもつ。</u>	【知・技】 【思・判・表】	 
	4	自分のできることに挑戦する	○家庭の中で自分のできそうなこと、やってみたいことを考え、行う。 (チャレンジ1) ※ワークシート③	◆ <u>1回きりではなく、継続して取り組める仕事や役割を考えるように促す。</u> ◆ <u>活動意欲が持続するように、活動期間中も、取り組みの様子を尋ねたり、報告する場を設けたりして支援をする。</u>	【思・判・表】 【思・判・表】	 
	5		○家庭で行った仕事についてカードなどに表現し、挑戦したことを振り返る。 ※ワークシート③	◆ <u>家族からの感謝やねぎらいの言葉などを意図的に取り上げることで、自分の良さを実感できるようにする。</u>		

	6 (本時) 7 8	大作戦を伝える	<p>○家族が喜んだり、家庭生活が楽しくなったりするために自分が家族のためにできることを考え、行う。 (チャレンジ2)</p> <p>○「かぞくにここに大きくせん」で行ったことや分かったことを発表する。</p>	<p>◆<u>自らすすんで仕事を行ったり、役割を担ったりする中で、家族が喜んでくれることを考えられるようにする。</u></p> <p>◆<u>作文、家族の言葉の発表など、多様な表現方法を提示し、児童の思いや願いをもとに選べるようにする。</u></p> <p>◆<u>少人数グループやペアなど、何度も発表し、多くの友達から感想をもらえるように発表方法を工夫し、自分に自信がもてるようにする。</u></p>	<p>【知・技】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【主】</p>	   
深める	9	活動を振り返り、手紙を書く	<p>○分かったことを伝え合い、家族への手紙に表す。</p> <p>○教科書の「わたしの大きくせん」や「まんぞくハシゴ」を使って活動を振り返る。</p>	<p>◆<u>活動を振り返り、仕事や役割を継続してできたことを価値付け、自分自身が成長したことに気付かせる。</u></p> <p>◆<u>一人一人の気づきを交流し、それぞれを関連付けたうえで、これからも家庭での役割をすすんで取り組んでいけるように促す。</u></p>	<p>【知・技】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【主】</p>	  
	10	これまでの活動を振り返り、できるようになったことを伝え合う	<p>○これまでのことを友達と伝え合い、自分自身の成長を振り返る。</p> <p>○今後の生活の中で、家族と一緒にやってみたいことなどについて話し合う。</p>	<p>◆<u>単元の振り返りを行い、できるようになったことを発表し合うことで、自分の良さや成長に気付かせる。</u></p> <p>◆<u>地域行事について調べ、必要に応じて写真などを用意する。</u></p>	<p>【知・技】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【主】</p>	  

7 本時の学習（10時間扱いの6時間目）

(1) 本時の目標

- ・自分でできることや家族が喜ぶことを見付け、家庭生活が楽しくなるように考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教材, 教具, 学習形態	指導・支援 (○) 評価 (●)
導入 5分	1 個々のワークシートに書いてある保護者からのメッセージを確認し、自分の活動を振り返る。 ・私の頑張りを褒めてくれている。 ・「片付けを自分でしてほしい」って書いてある。 ・「言っていないのに、自分からやってくれたら嬉しい」って書いてある。	【個人→全体】 ・ワークシート 【全体】 ・まんぞくハシゴ	○保護者からの手紙には、①頑張りを褒める内容、②更なるステップアップを期待する一言が入るようにお願いしておく。 ○まんぞくハシゴを活用して、自分を見つめ直したり、新たな意欲につなげたりできるようにする。
展開 3分	『かぞくもつとにこにこ大きくせん』をかんがえよう		
5分	3 どのようにすると、家族が「もつと」にこにこになれるかを考える。 ・言われなくても自分からできるといいんじゃないかな。 ・毎日忘れずにやるといい。 ・隅々まで丁寧にするといい。 ・新しく○○もやってみたいな。 ・自分のことをちゃんとやらなきゃな。 ・いつも疲れているから、マッサージしてあげるとにこにこになってくれそう。	【全体】	○自らの取り組みを更にレベルアップさせるための視点を分類・整理して黒板に掲示し、キーワードをそれぞれの大きさに気付けるようにする。 【課】 ○お手伝いとどまらず、家族団らんなど、家庭生活を豊かにすることにも目を向けさせる。
	4 「もつとにこにこ大作戦」を考え、ワークシート（計画表）に書く。 ・私は、自分からお皿運びをして、家族をにこにこにしたいな。 ・明日の学校の準備を自分からすることも作戦になるのかな。 ・お母さんにマッサージをしてあげたらにこにこになりそうだな。	【個人】 ・ワークシート	●自分ができることや家族が喜ぶことを見付け、家庭生活が楽しくなるように考えることができる。【思・判・表】
まとめ 5分	5 ペアの友達と決意表明し合う。 ・すごい！それならきっと家族がにこになるね！ ・僕も同じことをするよ。一緒に頑張ろう。	【ペア→全体】	○「にこにこ大作戦」の内容を発表し合い、認め合うことで自分の作戦に自信をもてるようにする。【人・社】【自】
	6 本時の振り返りをし、ワークシート（計画表）をもとに、1週間「にこにこ大作戦」に取り組むことを確認する。	【全体】	○子供たちの自覚を促すために、夢4のマグネットを活用して振り返りを行う。 ○活動期間中はワークシートを回収し、活動を価値づけたり、朝の会等で活動報告する機会を設けたりして、活動意欲が維持できるようにする。

8 板書計画

㊦ かぞくもつとにこにこ大きくせんを かんがえよう		まんぞくハシゴ
じぶんからすすんで	まい日かかさず	
ていねいに	あたらしいことにちょうせん	

1 年生成果と課題

1 成果

【手立て1】 仕事に「挑戦したい」という意欲的な気持ちで活動するために

- ・保護者との連携を密に行い、協力を得ることで、「自分の頑張りが家族の笑顔につながるんだ。」と、子供たち一人一人が自分事として捉えながら、学習を進めることができた。
- ・板書を工夫し、チャレンジ2で自身のレベルアップにつなげるためのポイントをキーワードでまとめたことで、取り組むことや意識することを一人一人がよく考えられていた。
- ・「まんぞくハシゴ」を活用し、自分の取り組みに対する満足度を視覚化したり、友達の満足度を交流したりしたことによって、自分を見つめ直したり、新たな意欲につなげたりすることができた。

【手立て2】 自分の「できる」を見付けるために

- ・保護者から、褒め言葉や励ましの言葉をもらうことによって、一人一人が自信（自己肯定感）をもつことができた。
- ・単元を通して、話し合い活動や発表活動で認め合える雰囲気大切にしていたことで、子供たち一人一人が意欲的に話し合い活動や発表活動に参加できる児童が増えてきた。

2 課題

【手立て1】 仕事に「挑戦したい」という意欲的な気持ちで活動するために

- ・「まんぞくハシゴ」の上限について、どのように伝えていくかが課題として残った。今回の授業では、100を上限としたが、子供たちの思考としては100を超えた数値も出てきた。1年生時点では、数の概念が曖昧なので、100を超えるほど頑張ったと認めるか、上限を100で止めておくかは、これまでどのように活用したか、各学級の実態にもよると考えられる。（まんぞくハシゴは生活科の教科書に載っている）

【手立て2】 自分の「できる」を見付けるために

- ・保護者からのメッセージを子供たちが読むタイミングや、全体での共有の仕方についてはもっと工夫が必要だと感じた。チャレンジ2では、自身のレベルアップをねらいとするので、「おうちの人から何かアドバイスは書いてある？」というように、レベルアップにつながるポイントを意識できるようにする。
- ・まだまだ話し合い活動や発表活動に抵抗感をもつ児童もいるので、本単元に限らず、どの教科・学習でも互いを認め合える雰囲気作りを意識していきたい。